

平成25年度第2回 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会

1 日 時 平成26年3月12日（水） 13:30～16:00

2 場 所 埼玉県立歴史と民俗の博物館 2階 会議室

3 出席者

(1) 協議会委員

中村政代、石崎武志、植田富美子、岩崎一女、品川寛子、大野隆司、乙山真、
貝瀬孝和、金子知里、鎌倉佐保、小泉玲子、林宏一

(2) 歴史と民俗の博物館

銭場正人館長、杉崎茂樹副館長、藤野龍宏教育主幹、川上由美子主席学芸主幹、
杉山正司主席学芸主幹、佐藤敏光総務・施設担当部長、山本純二総務担当課長、
増茂直人施設担当課長、西口正純学習支援担当学芸主幹、田中裕子展示担当学芸主幹、
野中仁資料調査・活用担当主任学芸員、渡辺良一総務担当主任、高村真史総務担当主
任

(3) 生涯学習文化財課

関義則主幹

(4) さきたま史跡の博物館

鈴木秀雄主席学芸主幹

(5) 嵐山史跡の博物館

木村博昭副館長

(6) 自然の博物館

中村修美副館長

4 欠席委員

石井和男、堀越洋子、一ノ瀬俊也、浜田弘明

5 会議の概要

(司会進行：藤野教育主幹)

(1) 開会

(2) 館長あいさつ 銭場正人

(3) 会議録署名人の選出

協議会規則第7条第2項の規定に基づき、石崎武志委員と鎌倉佐保委員が指名される。

(4) 会議の公開、非公開について

協議会規則第6条の規定により、会議の公開、非公開について決議を行い、公開と決定される。

なお、傍聴希望者は0名であった。

6 議 事

(1) 平成25年度事業報告について

杉崎副館長から、平成25年度第1回協議会でいただいた質問や要望について回答。その後、平成25年度事業報告(1月末時点)について資料に基づき報告。委員からの質問、意見及び事務局からの回答は、次のとおりである。

(委 員)

I P Mについて伺う。収蔵庫内の現状を教えてください。

(事務局)

有害生物管理については、I P Mの考え方に則り作業している。殺虫消毒・有毒生物防除業務として、170万円を予算計上している。具体的業務として、年2回の薬剤散布と約70か所のトラップの設置である。トラップについては月1回、回収して状況を見ており、現在、推移などについて集計中だが、季節によりかなり変動がある。

さらに、月2回は収蔵庫の点検や清掃を職員で実施している。残念ながら有害生物がゼロになることはないが、嚴重に管理する場所と比較的人の出入りのある場所とをメリハリをつけて管理しているところである。

(委 員)

収蔵庫内で虫やカビが発生していないか教えてください。

(事務局)

カビについては、平成16年に空調設備が整備されたためほとんど見られない。

虫についてはチャタテムシなどの小さい虫はいるが被害は出ていない。現状としては正常な環境と言ってよい。

(委 員)

燻蒸剤は何を使用しているのか

(事務局)

酸化エチレンである。

(委 員)

長瀬総合博物館から受贈されたものは具体的にどのような物か。

(事務局)

回答の前に、資料の修正をお願いしたい。

資料の7頁2(1)の1,051点を1,067点に、同頁①購入17点を16点に、①の一つ目埼玉県布達を2点から1点に、②受贈1,135点を1,051点に、②の最後8頁、長瀬総合博物館旧蔵資料を483点から399点に修正願いたい。

長瀬総合博物館から受贈された資料は、塩谷覚三郎の膨大なコレクションで、絵画、彫刻、工芸、歴史資料など非常に多岐に渡っており、半分程度が考古資料である。そ

の中には、国の重要文化財の「十鈴鏡」や県指定文化財の「笑う埴輪」などもある。
また、当館では歴史と民俗に関する資料を受贈し、考古資料はさきたま史跡の博物館と嵐山史跡の博物館で、岩石や地質関係は自然の博物館で受贈する。

(委員)

歴史民俗講座の参加者数を見ると、歴史・考古関連が多いようだ。事務局はその辺を考慮しているか。

(事務局)

歴史民俗講座は、利用者から「学芸員の話しを聞きたい」という要望を踏まえ、特別展や企画展の開催期間中に関連するテーマを設定して実施している。利用者にわかりやすく伝えられるよう努めているところである。

(委員)

学習支援関連について伺う。ホームページに「子供向け」、「大人向け」といった明示がされているか。明示されていると、学校サイドから閲覧した際、「行ってみよう」、「学習してみよう」という気持ちになると思うし、学校と博物館の連携にも繋がるはずである。動画などもあれば、なお良いと思う。学校のホームページにも博物館のホームページのリンクを貼るなど工夫したいと思っている。

(事務局)

ホームページについては、今年度大幅に見直したところである。「学校と博物館の連携・利用案内」というメニューの中で、10室ある展示室から各3点程度を取り上げて、児童にも理解できる内容で展示室の説明を掲載している。さらに、学校の教育課程の進行に合わせた内容の説明を掲載することで、授業でも取り入れやすくなるよう工夫したところである。

(委員)

中学生の職場体験は具体的にどのような活動をしたか。

(事務局)

総務の仕事から学芸員の仕事と幅広く体験してもらった。例えば、ゆめ・体験ひろばでは通常体験メニューの補助業務をしてもらうなど、博物館の学習支援事業の一端を担ってもらった。

(委員)

今年度開催した特別展「狩野派と橋本雅邦」を見た。とても良かった。決して「子供向け」の展示と言うわけではないが、「狩野派と橋本雅邦」といった「本物」を子供に見せるということは大切なことだ。小さい子供に「本物」を体験させることは、これからの「生きる力」にも繋がる重要なことだと思っている。

(事務局)

今年度開催した、企画展「絵で語る埼玉の民話」では、ゆめ・体験ひろばに来た子

供を対象にワークシートを実施した結果、多くの子供が展示室に足を運び、たくさんの展示物を見てもらうことができた。

(委員)

裏方探検隊は、すでに50回も実施しており大変な努力だと思う。地味な活動かもしれないが、是非、今後も続けてほしい。

全出席委員とも異議なく原案どおり了承

(2) 平成26年度事業計画について

杉崎副館長から資料に基づき説明。委員からの質問、意見及び事務局からの回答は、次のとおりである。

(委員)

体験事業について伺う。定員があるのは仕方ないが、来館しても参加できないケースはあるか。

(事務局)

体験事業は通常体験と特別体験の2種類ある。特別体験は事前予約のため、来館しても参加できないケースはない。通常体験は、ホームページでも掲載しているが「江戸組紐ストラップづくり」が、水曜日と土曜日の実施であるため、他の曜日に来館された方は体験できないこともあるが特に問題は生じていない。これ以外では当日に来館して、参加できなかったという声はない。

(委員)

参加できなかった人数はわかるか。

(事務局)

十二単の着装体験は人気がある。多いときは倍率が4倍にもなる。

現状では、同一年度で複数回当選する人もいる。来年度は、例えば同一年度での当選を1回までとするなど、工夫をしたいと考えている。

(委員)

参加したくてもできない人がいるのなら、増員の工夫を検討しても良いと思う。

(意見)

(事務局)

最近、高齢者の利用が増加傾向にあるため、来年度は通常体験メニューで「編布コースター」を新たに設置する予定となっており、増員の工夫にも努めているところである。

(委員)

手首に巻くミサンガづくりなどが体験できれば、高齢者から子供まで幅広く人気が出

と思う。

(事務局)

現在実施している江戸組紐ストラップづくりは、ミサンガと似通っている部分があるのかもしれないが、高齢者から小さい子供まで人気があり、年齢幅のあるメニューとなっている。

(委員)

ミュージアムヴィレッジについて伺う。地域の活性化や集客に繋がっているか。

(事務局)

ミュージアムヴィレッジ大宮公園は近隣9施設を対象とした連携事業であり、スタンラリーやガイドブックを作成するなど、各施設の個性を生かしながら相互に連携している。利用者の中には、配布されたガイドブックを見て来館される方も多く、集客にも繋がっている。

(委員)

近日、市立の博物館に行く企画をしているが、歴史と民俗の博物館でも、良い企画があれば、是非、利用したいと思っている。その際は、ある程度まとまった人数で利用したいと考えているが、バスの利用は可能か。団体受付はどうするのか。

(事務局)

団体予約とバスの利用については事前に電話で連絡願いたい。

バスを駐車する場所がないと思っている方もいると思うが、12台は駐車できるので安心して来館してほしい。なお、12台のうち3台は博物館脇の通路に縦列で駐車でき、正面入り口も近く非常に便利である。

展示解説についても、当館のボランティア又は学芸員が対応するので、活用してほしい。

(委員)

来年度実施予定の企画展「埼玉の自由民権」とは秩父事件のことか。秩父事件以外のことも取り扱うのか。

(事務局)

平成26年度は秩父事件から130年目の節目の年ということもあり、企画展を開催する予定である。なお、当該企画展は秩父事件だけでなく、七名社など県内の結社も取り上げるとともに、関東にも視野を広げて、加波山事件などといった、周辺で起きた事件も取り扱う予定である。

全出席委員とも異議なく原案どおり了承

(3) 博物館評価について

それぞれ各館から説明があった。委員からの質問、意見及び事務局からの回答は、次のとおりである。

(委員)

目標値設定の考え方を教えてほしい。

(事務局)

例えば、資料30頁の数値化共通項目1から5については、過去5年の平均値及び増減率を算出して設定している。

(委員)

県民からの要望で実現した企画などはあるか。

(事務局)

自然の博物館では今まで親子連れや子供向けの講座が多かったが、もっと内容が高度なものを実施してほしいという要望があった。これを受け、今年度「地質図の読み方」という講座を開催して、実際に現地に赴きクリノメーターという測量道具を用いて、地形図と見比べたり地層を調べたりと、内容が高度な講座を実施した。

嵐山史跡の博物館では、例年歴史講座を実施しているがアンケートをした結果、初級者にもわかるような講座を実施してほしいという声があった。これを受け、今年度新たに初級歴史講座を設け、「仏像・寺院の見方」という講座を実施した。

(委員)

各館とも、積極的な広報活動で入館者の減少を食い止めている。そこで、歴史と民俗の博物館について伺う。共通項目の経営努力で収入額がC評価となっているが、観覧者数は少なくなかったように思うがどうか。

(事務局)

観覧者数については先ほど申したとおり、過去5年の平均値から目標値を設定している。しかし、収入額については平均値ではなく当初予算額を目標値としている。当初予算については、財政当局との折衝があり、充実した事業を実施していくためには、ある程度の予算額が必要となり、このような評価結果になった。

(委員)

歴史と民俗の博物館の32頁の自己評価総括についてだが、なかなか数字では表せないものも多く苦労しているのではないか。そこで、31頁にある事業の成果などを自己評価の項目に取り入れても良いのではないかと思う。(意見)

(委員)

さきたま史跡の博物館の課題の中に、評価の手法や基準を見直す時期にきているように思う、とあるが検討は進んだか。

(事務局)

ワーキンググループで検討した結果、毎年のように様式を変更すると長期的視点からの評価が困難になるため、今後2年間は現行の様式を使用して評価していくこととしたい。併せて、平成28年度からの更新に向けた検討も同グループで行う予定である。

(委員)

自然の博物館で高校生のインターンシップをしているが規約などはあるのか。

(事務局)

地元の県立皆野高校は、以前からインターンシップを実施していたということもあり、当館では、皆野高校の規約に則り受け入れを行っているところである。

(委員)

具体的な業務は何か。

(事務局)

受付補助業務や資料整理の補助、またグッズの製作を手伝ってもらっている。

(委員)

歴史と民俗の博物館ではPRのためコバトンと呼んだとあるが、コバトンだけではなく、マナビィも呼んで積極的にPRしてほしい。

事務局の提案について、全出席委員とも異議なく了承

7 その他
特になし

8 閉会

9 視察 常設展示視察